

たのしくあそぶ まちづくりを応援する情報誌「たむたむ」

tam tam

2024.03
VOL. 27

丹波市市民活動支援センター

地域行事のこれから



特集

岐路に立つ、地域行事

インタビュー

一般財団法人 神楽自治振興会

コラム

編集長雑記
どんど焼き？とんど焼き？

岐路に立つ、地域行事

昨年、地域では行事の再開が相次ぎました。コロナ禍で一時休止となっていた行事が4年ぶりの再開となり、地域に活気が戻ってきたという声とともに、休止期間を経たことで、あらためて住民同士が直に接する機会の大切さを感じ、地域行事の必要性を再認識したとの声も聞かれます。しかし一方では、これを契機に長年続けられてきた地域行事の廃止に踏み切るケースも見られました。

今号では、岐路に立たされる、地域行事のこれからについて考えます。



しぐら春の祭典

地域行事があるのは

当たり前ではない

昨年、野上野自治会（春日地域春日部地区）で長年続けられてきた「れんげ祭り」の廃止が正式に決まりました。れんげ祭りは地域の外からも多くの人が訪れる行事で、一面に咲くれんげが売りの催しでした。最盛期にはれんげ畑以外にもあまご掴みや屋台の出展を行うなど賑わいを見せましたが、コロナ禍による休止期間を経て、行事の再開は難しいとの判断に至りました。

自治会長は廃止に至るまでの経緯を振り返り、「準備に携わる住民の負担が大きく、内心では皆止めたと思うていた。そういう意味ではコロナ禍による休止はよいきっかけになった。」と話します。廃止に対し、自治会内から大きな反対の声は特になかったとのこと。れんげ祭りの事例に限らず、昨市内では多くの地域行事が廃止、縮小となっています。これまではずっと走り続けてきたため表面化しなかったものの、コロナ禍により急に立ち止まったことで、実は既に体力の限界に近付いていたことを浮き彫りにした格好となりました。

市内では一貫して人口減少が続いており、それに伴う高齢化も進んでいます。行事に限らず、地域自治全般の担い手が不足しており、今のままの自治機能を維持していくことは困難です。担い手が減少する中でも地域としての機能を維持していくためには、限られた人的資源を振り分ける先を取捨選択していかなければなりません。地域行事

も、その取捨選択を迫られるものの中のひとつです。これまで当たり前のように続けられてきた行事も、住民の合意や協力が得られる状況を土台としなければ、これから先も続けていくことは難しいのかもしれない。

住民の理解、協力を得る働きかけ

住民の理解、協力を得るにはどういった働きかけが必要でしょうか。

長年当たり前のように続けられてきた地域行事も、元を辿れば本来の目的や意義があり始められたはずです。これまでのように前例踏襲で続けられる時代ではなくなりつつある今、あらためてその存在意義に立ち返る必要があります。

「コスモス祭り」は水上地域清住で行われている行事で、自治会内に設置されている実行委員会（住民のみ・毎年10名〜15名）によって運営されています。集落内約21haの農地を3分割し、3年に一度の輪番でコスモス畑にしています。実行委員会は、毎年7haもの農地を耕し種を撒く必要があり、かかる負担も大きいといえます。それでも約30年間続いてきた背景は、この行事が住民にとつて明確なメリットがあることが挙げられます。ひとつは農業用水の確保です。清住は山間にある集落で、農業用水を大きな川から汲み上げるような立地にはなく、天候によっては水不足に悩まされるのが課題でした。そこで集落内の農地の1/3をコスモス畑にし、計画的に水田の数

を調整することで、水不足の解消に繋がりました。また、必ず3年に一度はコスモス畑として利用されるため、休耕田となっても荒れ果てることなく、集落内の農地維持・景観維持に役立っています。行事の本来の目的や意義が明確であるが故に住民の理解を得ることができ、継続されているケースといえます。



広瀬自治会（春日地域大路地区）では昨年、毎年恒例であった「お盆の夏祭り」を廃止し、代替行事として「春のお花見会」を開催するという決断をしました。この決断に至るきっかけとなったのが住民アンケートです。それでも広瀬自治会では住民アンケートを実施していましたが、慣例的に戸主が回答するケースが大多数で、どうしても集まる意見に偏りがありました。そこで各家庭に2枚のアンケートを配布し、「1枚は戸主、もう1枚は別の性別の方で回答してください」という案内を加えることで、より広く意見を拾い上げ

ることができるようにしました。その中で、「本来住民同士の親睦を深めるために行われていた夏祭りが、いつの間にか女性や親子連れにとって参加しづらいものになっていた」ことが分かり、夏祭りの廃止、そして代替行事を検討するきっかけとなりました。その後はアンケート以外にも住民同士のお話を開催してさらに広く意見を募り、自治会の若手役員を中心に準備を進め、お花見会の開催に至りました。結果、従来の参加者に加え、女性や市内で離れて暮らす親子連れの参加などもあり、より幅広い人たちが参加しやすい行事として生まれ変わりました。住民同士の親睦という本来の目的に沿いつつも、住民の声や地域の現状に合わせてやり方を柔軟に変え、形にしたケースといえます。

自分たちで選択する地域のこれから

地域行事のこれからに関しては、何を残し、続けるのか、考える時期にきています。

地域における人口減少や担い手不足の進行は市内どの地点においてもそう大差はなく、住民に必要とされる行事であっても、この先無条件に続けていけるわけではありません。しかし、行事の本来の目的や意義を共有できていれば、継続していくための住民の理解や協力を得やすくなります。また、本来の目的や意義に即しつつも、持続可能な形にやり方を変えながら続けていく道を探ることができるかもしれません。担い手の不足を住民の頑張りだけで埋めようとすると、いつかはしん

どくなってしまう。今は地域外で暮らしている地元出身者や、関心を持ってくれる都市部の住民、さらには事業者などを新たな担い手として取り込んでいく工夫も重要です。それら試行錯誤の末、「やはり継続は難しい」という結論に至るケースももちろんあるでしょうが、皆で考えた末の結論であればそれでもよいのではないのでしょうか。自分たちで考え、自分たちで選択する。それがもっとも重要なことではないでしょうか。

現状維持を続けていても、いずれ立ち行かなくなる時がやってきます。「継続できないので止める」以外に選択肢のない未来がやってくる前に、今から考え始める必要があります。もしかしたらこの先10年が、複数ある選択肢の中から自分たちで考え、選ぶことができる最後の機会かもしれません。



▶ 地域の未来について話し合う様子

インタビュー

一般財団法人 神楽自治振興会

地域コミュニティ活動推進員
足立純子さん

「しぐら春の祭典」を通した

地域との関わり

神楽地区で毎年行われているイベント「しぐら春の祭典」。これまでに5回開催され、神楽地区の恒例イベントとして定着してきています。特に昨年は、閉校となっていた旧神楽小学校を活用した施設「FOREST DOOR しぐら旧神楽小学校」のリニューアルグランドオープン記念式典と併せて実施したことで、これまでとは違った層からの参加もあり、このイベントが神楽地区以外にも広く知れ渡る契機となりました。

神楽自治振興会活動推進員の足立純子さんに昨年の春の祭典で印象に残った場面を伺ったところ、「中高生ボランティアの関わり」を挙げて頂きました。中高生対象のボランティア募集には予想を超える反響があり、急遽募集の上限を設けるほどで、主催者にとっても大きな力となりました。また、中高生ボランティアは神楽地区在住の生徒だけではなく、青垣全域から集まってくれたことも、とても印象的だったそう

です。青垣では2017年、4校の小学校が統合して青垣小学校が誕生しました。神楽では地区内に小学校がなくなったことによる喪失感や後ろ向きな影響を感じることもありましたが、中高生が青垣全域から集まってくれた姿に、若い世代が青垣としてひとつにまとまっていく前向きな可能性を感じることができたそうです。



来場者を迎える中高生ボランティア

今年の「しぐら春の祭典2024」は

4月21日（日）、「FOREST DOOR しぐら旧神楽小学校」グラウンドにて開催です。ぜひ皆さまお越しください。

コラム



編集長雑記
どんど焼き？ とんど焼き？

皆さんのお住まいの地域に「どんど焼き」という行事はありますか？ 1月15日前後、竹で組んだ土台にわらを被せ、お正月飾りなどと一緒に焚き上げる行事で、平安時代の宮中行事がもとと言われています。

この行事は全国的に見ても多くの地域で行われていますが、実は地域によって呼び名が異なります。関東を中心にいちばん多いのはどんど焼きですが、北陸では左義長（さぎちよう）、信越では道祖神祭（どうそじんまつり）、九州では鬼火焚き（おにびたき）など、その他にも多くの呼び名が存在します。また、燃やすものにも違いが見られ、たくさんのだるまを燃やす地域や、食べ物と一緒に焼くところもあるようです。

ところで、このとんど焼き、どんなご利益があると聞いたことがあるでしょうか。少し調べてみると、一般的な「家内安全・無病息災」から、「字が上手くなる」「虫歯にならない」「よい出会いがある」といった、ちよつと都合がいいのでは？と思われるものまでさまざま。私も幼い頃おばあちゃんに「とんどで焼いたみかんを食べたら背が伸びる」と言われたことがあります。これらは地域性というよりも、そこにどんな願いを込めるのかは関わる人の想い次第、といったところなのかもしれません。



丹波市市民活動支援センター
TAMBA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER
<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>

〒669-3467 兵庫県丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2階 丹波市市民プラザ内
TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp
開館時間 10:00 - 18:00(会議室は 21:30 まで) / 毎週月曜日・年末年始休館